

震災で「ママのネットワーク」づくりを着想

子育て主婦のスキルを生かし、企業の業務代行を推進し注目されているコッコト。代表の宮本直美さんは、持ち前のアイデアを駆使してユニークな被災者向け応援プロジェクトを実行した。「何かしたいけど」と悩んだ結果、避難してきた人に癒しと憩いの機会をプレゼントした。福島県双葉町は原発事故によって町役場と住民全員が避難を余儀なくされ、さいたまスーパーアリーナに引越してきた。

同郷で同じ不安を持つママ友でも作ってもらえたらと、アリーナに隣接するランド・アクシス・タワービル内の会議室を会場にして助産師と先輩ママによる「産前産後・

育児相談」を開き、親子と孫が楽しめる「ヨガやハンドマッサージ」などのコーナーも設けた。

メールとブログで協力を呼びかけると、洋服や生活用品が続々と集まりコッコトの保

育室がいっぱいになった。宮本さんは震災を経験して「ママのネットワーク」の全国市町村版が作れないかと模索している。「非常時に遭遇したとき、ピンポイントで情報を送りピンポイントで助けてもらえる仕組みができたとしても心強い」と発想を形にする心づもりだ。



宮本直美 (みやもとなおみ)

埼玉育ち。2児の母。自身の出産を機に、女性が家庭・育児・仕事・自分の時間をバランス良く活用する方法を考えるようになり、主婦のマンパワーを活用したアウトソーシング会社「コッコト」を設立。入力業務を中心に、大手企業から個人事業主まで幅広いニーズに応えている。「お客様に選ばれる」サービスを目指し活動中。